2024年度 環境経営レポート

(対象期間:2024年 1月 ~ 12月)



発行日: 2025年 3月 28日

改定日: 2025年 7月 22日



承 認	環境管理責任者	環境管理事務局
安井	神崎	竹

株千 石 上野工場・宮前工場・千石アラジン工場

I:環境経営方針

1. 環境理念

当社は環境活動を経営の最重要課題の一つと位置づけ、環境への取組と環境負荷の削減に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献します。

2. 行動指針

当社は『給湯器関連商品』の開発・生産活動・関連事業活動を通じて次の項目に取組みます。

- (1)環境関連法規制等を遵守します。
- (2)エコアクション21環境経営システムを構築・運用し、汚染の予防に努め継続的改善を図ります。
- (3)事業活動全般における環境負荷を削減するために次の活動に取組みます。
 - ① 省エネルギー (二酸化炭素排出量の削減)
 - ② 廃棄物の分別 徹底と削減 (廃棄物排出量の削減) ☆
 - ③ 水使用量の削減
 - ④ 化学物質使用量の管理の徹底と使用量削減
 - ⑤ 製品およびサービスにおける環境配慮 (顧客流出不良の低減) ☆

☆を重点的に実施

3. この環境経営方針は全従業員に周知するとともにホームページ等で広く一般に公開します。

制定日: 2007年 12月 1日 改訂日: 2023年 3月 30日

代表取締役社長

千石 滋之

II:組織の概要 Page 3/12

(1) 事業者名 株式会社 千石

・ 代表者氏名 千石 滋之

URL https://www.sengokujp.co.jp/

(2) 对象事業所(適用サイト) 株式会社千石

· 代表者氏名 安井 聡一 取締役 兼 製造本部 本部長

・ 所在地上野工場〒675-2434兵庫県加西市上野町526-2宮前工場〒675-2462兵庫県加西市別所町宮前17

千石アラジン工場 〒675-2445 兵庫県加西市殿原町460

・適用サイトにした理由: 給湯器本体組立及び給湯機器部品の関連事業については、顧客要求もあり環境マネージメント 推進が必要な為。

(3) 適用サ小外事業所

・ 所在地 本社事務所棟 〒675-2462 兵庫県加西市別所町 3 9 5

及び 本社工場

・適用サイト外にした理由:給湯器関連及び太陽熱温水器を製造する事業所については、顧客要求もあり環境マネージメントの

取組み推進が必要ですが、自社開発商品及び白物家電(OEM)関連における完成品事業については、 主に日本ではこれらの設計開発を主業務としており、実際の物作りを行っている生産工場(海外)

ではISO14000を取得しております。

又、自社開発商品及び白物家電(OEM) 関連事業においては自主的な環境配慮の取組は行っていますが、得意先様からの環境に関しての第三者認証の必要性を求められておらず、取り扱っている製造事業内容が異なる完成品事業関連についてはEA21の認証取得はしないというのが当社の方針です。

※ < 別紙> 事業所の認証登録の状況 参照

(4) 適用サイトの環境管理責任者氏名及び担当者及び連絡先

· 環境管理責任者氏名 神崎 雅由 製造1部 部長

・ 連絡担当者指名 片山 敦夫 品質保証部 品質管理課

・電話番号/FAX番号 TEL:0790-44-2232 / FAX:0790-44-2066

(5) 適用サイトの事業活動

給湯機器完成品及び部品の製造・販売

(6) 事業規模(適用サイト事業所)

項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
生産高	t %1	5,098	3,562	3,327
売上高	百万円	4,233	4,134	3,272
従業員(①上野工場)		123	110	108
(②宮前工場)	人	27	38	38
(③千石アラジン工場)		_	37	43
床面積(①上野工場)		7,237.73	7,237.73	7,237.73
(②宮前工場)	m ²	3,140.00	3,140.00	3,140.00
(③千石アラジン工場)		_	5,476.00	5,476.00

^{※1} 給湯器部品の生産高

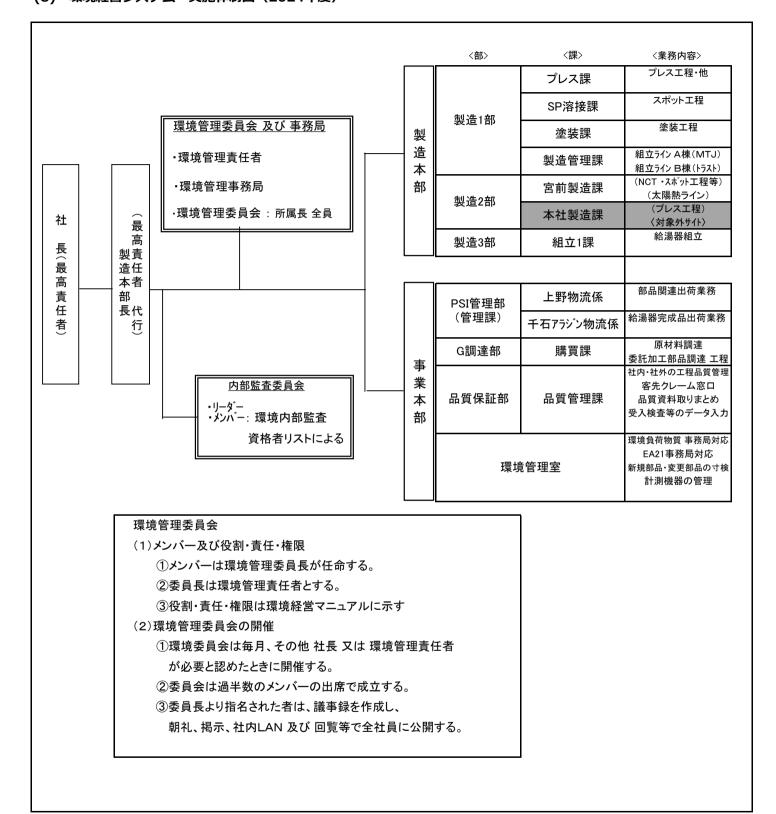
(7) 主な環境負荷の実績(適用サイト事業所)

項目	単 位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量(注1) (電力・LPG・ガソリン・軽油)	kg-CO2	960,314	898,001	1,027,858
廃棄物総排出量 (一般廃棄物・産業廃棄物・有価物)	t	1,092	849	824
電力量	kWh	1,763,767	1,762,128	1,666,390
液化石油ガス(LPG)	kg	119,309	102,016	98,592
総排水量	m³	2,080	2,815	2,734
化学物質使用量 (キシレン・トルエン)	kg	16,308	10,374	8,730

(注1) ※電力使用による二酸化炭素排出係数

・関西電力(株)様の2022年度調整後排出係数0.434kg-CO2/k Wh を適用

(8) 環境経営システム 実施体制図(2024年度)



Ⅲ:環境経営目標とその実績

当社の主な環境経営目標とその実績は次の通りです。

〔上野工場・宮前工場〕

※目標(削減)達成率={1+(目標値-実績値)/目標値}×100

- ※1 目標(増加)達成率={1+(実績値-目標値)/目標値}×100
- ※2「工程内不良率」はプレス工程における、生産高に対する工程内不良(廃棄処理)の量の割合を 表しております
- ※3 産業廃棄物の目標に関しましては、該当廃棄物の量が生産量に応じて増減し、 コントロールが困難なため、適正管理と表記しております 但し、木クズと金属クズについては、100%リサイクルしております
- ※4 目標達成率は木くず、金属クズに関してのリサイクルに関する達成率です
- ※5 化学物質に関しては、製造工程で必要なもので、それを削減することは品質に影響するため、 目標は設定しない

		目標・実績	単位	2023年度 (基準年)			4年度 2023年)		2025年度 (基準年2024年)	2026年度 (基準年2024年)
項目				(4++)	目標	実績	目標達成率 [※]	評価	目標	目標
二酸化炭素	総排出量の削減		kg-CO2	898,001	893,510.6	1,027,858	85%	×	1,022,718.9	1,017,580
	上野工場	使用量	kWh/ 加工高(万円)	14.63	14.6	12.75	112%	0	12.69	12.62
電力使用量	宮前工場	使用量	kWh/ 加工高(万円)	12.38	12.3	12.35	100%	×	12.29	12.22
	千石アラジン工場	使用量	kWh/ 加工高(万円)	19.21	19.1	8.06	158%	0	8.02	7.98
	本社工場(参考値)	使用量	kWh/ 加工高(万円)	6.34	6.3	5.23	117%	0	5.20	5.17
LPG	上野工場 (製造1部塗装課)	使用量	kg/ 加工高(万円)	6.26	6.22	4.36	130%	0	4.34	4.32
使用量	千石アラジン工場 (製造3部組立1課)	使用量	kg/ 加工高(万円)	0.22	0.21	0.13	139%	0	0.13	0.13
コピー 用紙	上野工場	使用量	k g / 加工高(万円)	1.70	1.69	1.33	121%	0	1.32	1.32
燃料	上野工場	燃費	k m/ ℓ	12.9	11.7	13.3	※1 114%	0	12.9	12.9
水使用量の剤	削減	排水量	m³	2,815	2,801	2,734	102%	0	2,721	2,707
	上野工場	使用量	m3/ 加工高(万円)	0.0414	0.0412	0.0371	110%	0	0.0370	0.0368
上水使用量	宮前工場	使用量	m3/ 加工高(万円)	0.0068	0.0067	0.0074	91%	×	0.0073	0.0073
	千石アラジン工場	使用量	m3/ 加工高(万円)	0.1400	0.1393	0.0406	171%	0	0.0404	0.0402
	本社工場 (参考値)	使用量	m3/ 加工高(万円)	0.0101	0.0100	0.0101	99%	×	0.0101	0.0100
金属くず	上野工場 (製造1課1係)	工程内不良率の 改善 ※2	%	0.157	0.156	0.155	101%	0	0.154	0.153
廃棄物の分別 リサイクル推進	上野・宮前	産廃の 分別の徹底	%	※ 実施	※3 適正管理	実施	※4 100% (木くず/金属クズ)	0	適正管理	分別の徹底
※5 化学物質	上野工場	化学物物質 の管理の徹底 (トルエン/キシレン)	%	実施	管理の徹底	実施	達成	0	管理の徹底	管理の徹底
ロチが貝	±;_ <u>_</u> _*75	塗装工程内 不良率の削減	%	1.093	1.087	2.446	-25%	×	2.434	2.421
サ-ビス	上野工場	環境負荷物質管理 指針(得意先様)に基 く管理を100%行う	%	日程遵守	管理の徹底	日程遵守	達成	0	管理の徹底	管理の徹底
9-CA		客先流出不良の削減	% (対前年比)	103%	95%	97%	98%	×	95%	90%

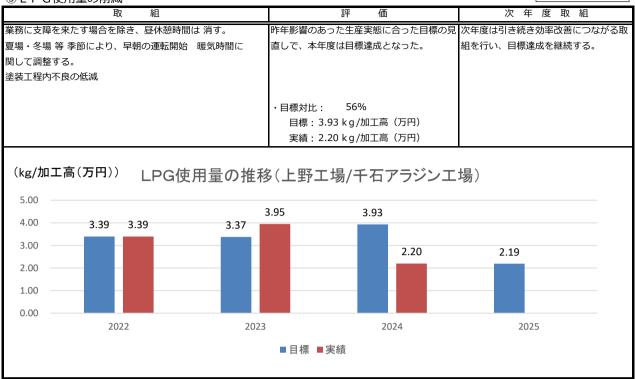
IV:環境経営計画の取組計画の評価及び次年度の取組内容

①二酸化炭素の削減

取組		評	価	次	年 度 取	組
基準年度 比 0.5% の削減目標を掲げ 取り組み	・二酸化炭	(素排出量は、	目標達成できでいな	全体のエネルギー量	は減少でき	ているので、
毎月の 全体 二酸化炭素 排出量の監視に取り組む	い。要因と	こして電力の排	出係数の上昇による	引き続き次年度	も製造効率	の改善に取組
	もので、全	と体の使用Iネルネ	~-的には減少してい	み、目標達成で	き るように	対応してい
	る。			<.		
	・目標対比	է։ 115%				
	目標:	893,511	kg-CO2			
	実績:	1,027,858	kg-CO2			
(kg-CO2)	二酸化炭素排	‡出量の推	移(全体)			
1,500,000						
1,000,000	955,513 898,001	893	3,511 ^{1,027,858}	1,022,719		
500,000						
0						
2022	2023	標 ■実績	2024	202	25	

取 組	②電力使用量の削減			
業務に支障を来たす場合を除き、 昼休憩時間は一斉消灯する。 不使用室、不要箇所は消灯する。 夏場、冷房時、冬場 暖房時等 リモコンスイッチの設定温度を 固定にする。(夏場・・・28℃ 冬場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	取組	評	価	次年度取組
昼休憩時間は一斉消灯する。 不使用室、不要箇所は消灯する。 夏場、冷房時、冬場 暖房時等 リモコンスイッチの設定温度を 固定にする。(夏場・・・28℃ 冬場・・・20℃) 不要照明の間引きの実施。 ○ A機器の不使用時にはスイッチを切る。 退社時は所定の電気のブレーカーを切る。 〈原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事〉 「はWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 10.84 10.82 10.76	スイッチに「節電」シールを貼る。	昨年影響のあった生	産実態に合った目標の見	次年度は引き続き効率改善につながる取
不使用室、不要箇所は消灯する。 夏場、冷房時、冬場 暖房時 等 リモコンスイッチの設定温度を 固定にする。(夏場… 2 8 ℃ 冬場… 2 0 ℃) 不要照明の間引きの実施。 O A機器の不使用時にはスイッチを切る。 退社時は所定の電気のブレーカーを切る。 <原則として、業務終了後 1 時間以内に消灯する事> (kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 13.87 13.80 11.56 11.50	業務に支障を来たす場合を除き、	直しで、本年度は目標	票達成となった。	組を行い、目標達成を継続する。
夏場、冷房時、冬場 暖房時等 リモコンスイッチの設定温度を 固定にする。(夏場・・・28℃ 冬場・・・20℃) 不要照明の間引きの実施。 〇 A機器の不使用時にはスイッチを切る。 退社時は所定の電気のブレーカーを切る。 〈原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事〉 (kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 10.84 10.82 10.76	昼休憩時間は一斉消灯する。			
固定にする。(夏場・・・28℃ 冬場・・・20℃) 不要照明の間引きの実施。 OA機器の不使用時にはスイッチを切る。 退社時は所定の電気のブレーカーを切る。 <原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事> (kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 10.84 10.82 10.76 11.56 11.56 11.50	不使用室、不要箇所は消灯する。			
不要照明の間引きの実施。 O A機器の不使用時にはスイッチを切る。 退社時は所定の電気のブレーカーを切る。 <原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事> (kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 10.84 10.82 10.76	夏場、冷房時、冬場 暖房時 等 リモコンスイッチの診	定温度を		
O A機器の不使用時にはスイッチを切る。 退社時は所定の電気のブレーカーを切る。 <原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事> (kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 13.87 13.80 11.56 11.56 11.50	固定にする。(夏場…28℃ 冬場…20℃)			
退社時は所定の電気のブレーカーを切る。 <原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事> (kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 13.87 13.80 10.84 10.82 10.76	不要照明の間引きの実施。	・目標対比: 84%)	
<原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事> (kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 13.87 13.80 10.84 10.82 10.76 11.56 11.50	O A機器の不使用時にはスイッチを切る。	目標: 13.80 kV	Vh/加工高(万円)	
(kWh/加工高(万円)) 電力使用量の推移(全体) 15.00 13.87 13.80 10.84 10.82 10.76 11.56 11.50	退社時は所定の電気のブレーカーを切る。	実績: 11.56 k\	Vh/加工高(万円)	
15.00 13.87 13.80 10.84 10.82 10.76 11.56 11.50	<原則として、業務終了後 1時間以内に消灯する事	i>		
15.00 13.87 13.80 10.84 10.82 10.76 11.56 11.50				
15.00 13.87 13.80 10.84 10.82 10.76 11.56 11.50				
10.84 10.82 10.76 11.56 11.50	(kWh/加工高(万円))	電力使用量の推移	公(全体)	
10.84 10.82 10.76	15.00	13.87	13.80	
	10.84 10.82	10.76	11.56	11.50
10.00		10.70		
	10.00			
5.00	5.00			
0.00 2022 2023 2024 2025		2022	2024	2025
2022 2023 2024 2025	2022	2025	2024	2023
■目標 ■実績		■目標 ■実績		

③ L P G使用量の削減



④コピー用紙使用量の削減

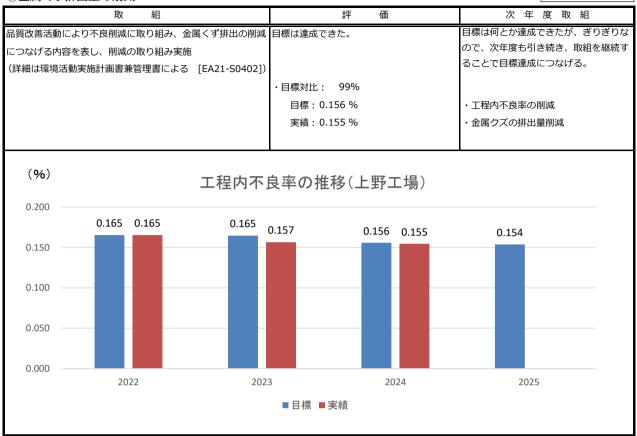
取組		評価		次年度取組
	き、コピー利用 目	 標は達成できた。		■ 取組は継続して実施し、無駄な用紙の使
者の節約意識を高める。				用は避けるように取り組む。
パソコンよりの プリントアウトの際、 プリン	ト打ち出し前に			
十分に自己チェックを行い、プリント時のミス	スプリント によ			
る無駄を減少させること。				
定例の品質会議 等において、プロジェクター	の利用により会			
議資料の配布を減少させる。課内での閲覧用:	コピー等に関し			
ては出来るだけ、ミスプリント等により片面F	D刷された裏面を			
再利用し コピー用紙の削減に取組む。		目標対比: 79%		
毎月1回 不定期に2~4 項目が実行されて	いるかチェック	目標:1.69 kg/加工高	(万円)	
する。		実績: 1.33 kg/加工高	(万円)	
(kg/加工高(万円)) <u>=</u> 2.00 <u>1.42 1.42</u> 1.00 ———————————————————————————————————		70 1.69	1.33	1.32
0.00 2022	2023	20■目標 ■実績	024	2025

月の社用車における ガソリン					
株費効率の把握を実施する。 原客クレームの低減にて客先への が規購入時は省エネカー(ハイフ	D出張による 回数の低減を図	目標は達成できた。 ・目標対比: 114% Iる 目標:11.7 km/ 実績:13.3 km/	l	次年度も引き続き、取組を継続する。 高 た老朽化した車両の入替を行う。(HV 車比率の拡充)	
(km/ℓ)		燃費の推移	8(全体)		
15.0 —	11.7 11.53	11.7	13.3	12.9	
10.0 —					
5.0 —					
0.0	2022	2023	2024	2025	
	■目標 ■実績				

⑥上水使用量の削減

取組	評価	次年度取組
手順書を作成し、管理方法を定め 教育を実施する。	目標は達成できた。	目標は達成できたが、月毎/部門毎で未
蛇口 付近に「節水」等の掲示を行い、節水意識の向上に努め		達の場合があったが、不良対応などによ
ె .		るものであった。使用量は生産部品にも
水使用において、常に節水を心がける。		影響されるが、やはり不良を減少させる
全社的な 水道配管からの漏れがないか、常に監視を行う。		ことは無駄な上水使用量の削減につなが
毎月1回 不定期に巡回しクーリングタワーの水の漏れがない		るので不良発生抑制に取り組む。
かチェックする。		
	·目標対比: 87%	
	目標: 0.0344 ㎡/加工高(万円)	
	実績: 0.0299 ㎡/加工高(万円)	
0.0400	0.0346 0.0344 0.0299	0.0298
0.0300 0.0233 0.0235 0.0234		
0.0200		
0.0100		
0.0000		
2022 202	2024	2025
	■目標 ■実績	
<u> </u>		

⑦金属くず排出量の削減



⑧産業廃棄物の分別徹底と削減に取り組む

⑤/性未洗来物の方が側域と取り組む						
	取組	評価	次年度取組			
手順書を作成し	/、管理方法を定め 教育を実施する。	昨年に対し、減少できた。	次年度も引き続き、取組を継続する。			
ゴミ箱の分別表	表示を明確にし、分別表示通りにゴミ分別する事。	分別について、年々各自の認識がついてき	・パトロールでの監視活動			
ゴミステーショ	ンの分別表示を明確にし、分別表示通りの置き	ている。	・年間廃棄量の管理集計を行う			
場に処理する事	I。ゴミステーションの前には、廃棄処理が必要					
	いない事。再利用できる資源は再利用を図ること	· 昨対比: 94%				
で、産業廃棄物	列を削減する。	昨年:55,428 kg				
		本年:52,246 kg				
(kg)	産業廃 71,560	棄物量の推移(全体) 55,428	52,246			
50,000						
	2022	2023	2024			
		■実績				

⑨化学物質管理の徹底と削減に取り組む

9化子物質官	言理の徹底と削減に取り組む		
	取組	評価	次年度取組
手順書を作成し	教育の実施。	・昨年より微増となった。	次年度も引き続き、取組を継続する。
PRTR『特定作	化学物質』の管理/報告	一部機種で不良が増加し、その影響と	特に不良の減少は必須項目である。
1)対象物質→	トルエン・キシレン	思われる	・塗装工程の工程内不良削減
2)調査期間→	前年度4月より本年度3月まで		・PRTRの報告実施
3) 提出時期→6	5月末での提出	・年間廃棄量の集計	・マニュフェストの報告実施
産業廃棄物『特別	別管理、普通』の廃棄手順	・昨対比: 108%	・年間廃棄量の集計を数値化し、廃棄
1]運搬業者、「	中間処理業者、最終処分業者を指定し、	昨年:29,400 kg	 量削減の意識付けを行う。
管理マニフ	エストを5年間保管する事。	本年:31,800 kg	
2]年間廃棄量の	の管理集計を行う。		
	・・・・・・・・・・・ →①廃シンナー、②汚泥、③塗料カス、④洗浄原	液	
(詳細は化学物質	管理手順書のチェックシートによる [EA21-S0812])	
(kg)	年間廃棄量(廃シンナー	汚泥・塗料カス・洗浄廃液)の場)	D推移(上野工
60,000 —			
50,000 —	43,000		
40,000 —		29,400	31,800
30,000 —			
20,000 —			
10,000 — 0 —			
O -	2022	2023	2024
		■中体	
		■実績	

⑩一般廃棄物の分別徹底と削減に取り組む

	取組	評 価	次年度取組
分別表示を明確 ゴミステーショ 場に処理する事 ゴミステーショ 事。再利用でき 減する。 (詳細	、管理方法を定め 教育を実施する。ゴミ箱の 配し、分別表示通りにゴミ分別する事。 いの分別表示を明確にし、分別表示通りの置き このの前には廃棄処理が必要な物以外は置かない る資源は再利用を図ることで、一般廃棄物を削 間は一般・産廃廃棄物処理手順書のチェックシー EA21-S0806/-S808])	・昨年と比較し、大幅に減少している。 ・昨対比: 54% 昨年: 116,837 kg 本年: 62,942 kg	次年度も引き続き、取組を継続する。 ・資源の再利用活動 ・パトロールでの監視活動
(kg)	一般廃	棄物量の推移(全体)	
250,000	244,362		
200,000			
150,000		116,837	
100,000			62,942
50,000			
0	2022	2023	2024
		■実績	

迎製品およびサービスにおける環境配慮 (顧客流出不良の低減)

取 組	評価	次年度取組
受入検査の実施	・前年対比: 97%	生産数減少しているにも関わらず、不良 数は減少していない。次年度も引き続き 取組を継続し、更なる不良の削減に努め る

⑫地域貢献活動への取り組み

地域環境清掃の実施(2024年度) 毎月基本第1金曜日実施(雨天中止)







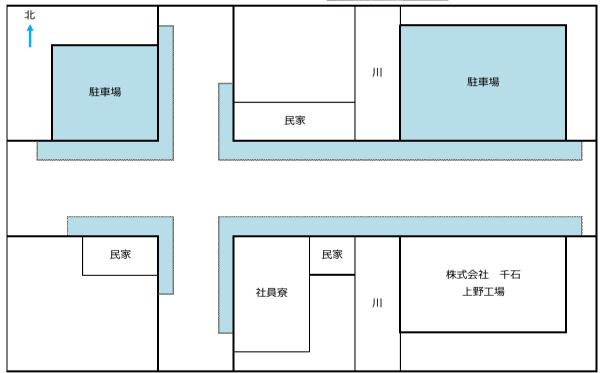








清掃エリア(水色部)



V環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

①環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用される法規等	遵守すべき要求事項	評価
1.騒音規制法	規制基準(60dB以下)を守っている。 変更が生じた場合の届け出の提出	遵守
2.振動規制法	規制基準を守っている。 変更が生じた場合の届け出の提出	遵守
3.廃棄物処理法	保管基準、委託基準、マニフェストの交付と管理、 交付状況報告等 行っている。	遵守
4.PRTR法	特定化学物質(キシレン・トルエン等)の使用量の届出等行っている。	遵守
5.消防法	危険物に関する届出等 必要に応じて行っている。	遵守
6.労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則等 守っている。 作業環境測定の実施(2回/年)	遵守
7.フロン排出抑制法	業務用エアコンの3ケ月毎の点検し記録と保管している。 コンプレッサー/ウォータークーラーの簡易点検の実施(3か月毎)	遵守
8.特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	公害防止管理者の選任と県知事への届け出	遵守

②違反、訴訟等の有無

- ・当社において定期的に実施する上記遵守評価の結果、環境関連法規等への違反、訴訟等は ありませんでした。
- ・なお、関係当局からの違反の指摘は過去3年間ありません。

VI代表者による全体評価と見直し・指示

全体評価と見直し実施日:2025.01.16		
最高責任者代行 安井 聡一		
見直し項目	変更の必要性	
1.環境経営方針	変更の必要なし	
2.環境経営目標	変更あり	
3.環境経営計画	変更の必要あり	
4.その他(実施体制含む)	変更の必要なし	
Iv = +++		

指示事項

2024年度も生産高が前年同様減少したままであるが、顧客への不良流出件数は横ばいとなってしまっている。各目標に対して宮前工場以外はほぼ目標達成が出来た。宮前工場の目標未達の要因は新規がプ゙リーの立ち上げと市場不良に起因するロスの増加である。やはり全部門において、品質ロスの低減はエネルギ-効率の改善につながるので、次年度も本年度をベースに目標値を設定し、ロスの最大原因である顧客への流出件数低減に努め、トータル的にエネルギ-ロスの削減に取り組むこと。

WI次年度レポート発行予定月

(9) 事業所の認証登録の状況(2024年度) 全社の組織・サイト図 本社事務所棟 ・・・・適用サイト 管理本部 管理部 ・・・・ 適用外サイト 商品戦略部 企画本部 海外営業部 取 営業部 締 上野事務所 役 開発部 社 事業本部 品質保証部 品質管理課 長 上野物流係 事業本部 PSI管理部 管理課 千石アラジン物流係 グローバル調達部 購買課 製造技術部 本社製造課 本社工場 宮前工場 製造2部 宮前製造課 プレス課 上野工場 SP溶接課 製造本部 製造1部 塗装課 製造管理課 組立1課 製造3部 アラジン工場 組立2課 グループ企業 大恵産業 株式会社 (西脇工場) (株)グリーンウッド / 日本AIC(株) (東京支店) 千石家電(恵州)有限公司 (中国工場) 東莞千石家電有限公司 (中国工場) Sengoku Philippines, Inc (フィリピン工場)